

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日:2024年 1月 23日

事業所名:ホザナ・ルーム

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	お子様の障がいの特性や年齢を考慮しながら、1階と2階のスペースを有効活用している。	最近は見学に行けていないので分かりません	引き続き、お子様の成長に合わせてスペースの確保を行う。
	2 職員の適切な配置	昨年同様、法令に遵守した職員の配置数を維持しているが、送迎便の運転手や添乗員、見守り職員の増員が今後の課題である。	それぞれのお子様に対してスタッフさんがいるので安心です。	昨年同様、実習生の受け入れも積極的に行い、専門性のあるスタッフを確保できるようにする。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	お子様が使用する玩具の整理や宿題をするための勉強スペースを確保を行った。	障がい度に合わせてフロアも分かれているが、きちんと交流もあり良い環境だと思います。	引き続き、施設で過ごすにあたり安全面の徹底及び安心した環境づくりを徹底する。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	1階・2階両方、清潔な空間の維持を徹底している。	1階がすごく綺麗と子どもから聞いています。	引き続き、清潔な空間を維持できるようスタッフ間で清掃をする。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員一人ひとりが自ら考え、行動に移す「能動的アプローチ」を心掛けて支援に努めている。朝のミーティングも日々行い、支援の目標・振り返りを行っている。		引き続き、能動的アプローチを中心にお子様一人ひとりの支援に努める。お子様の様子に変化等があれば、随時職員間で共有し支援に質を高める。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	決まった第三者による外部評価は実施されていないが、施設見学等は常に対応しながら「開かれた施設」の運営を心掛けている。		今後は第三者による外部評価も検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部講習や資格取得のための研修は常にチェックし、職員間で共有している。		引き続き、職員のスキルアップ向上のための研修会はチェックするようにし、参加しやすい環境整備を行う。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	引き続き、保護者との連携を通じて、お子様の状態や変化、成長のために必要なこと等を把握し、支援計画やプログラムに反映するように心掛けている。	・家では宿題を進んでやらないので、ホザナ・ルームできちんと宿題を取り組めるよう工夫してもらい助かっています。 ・子どもの情報をきちんと収集し、計画書も作成されています	引き続き、能動的アプローチを中心にお子様一人ひとりの支援に努める。お子様の様子に変化等があれば、随時職員間で共有し支援に質を高める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	引き続き、現状、個別活動を中心に支援計画の作成を心掛けている。集団活動への参加は個別の状態に応じて無理のない範囲で促している。		個別活動を中心に据えながらも、様々な年齢・病気・障がいのお友達同士の交流という「ホザナ・ルームらしさ」を大切に支援を行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	お子様一人ひとりに合わせた支援内容を心掛け、今後の目標設定等を行っている。	成している。	具体的な支援内容については常に職員間で共有しながら、支援の質を安定的に高めていけるようにする。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	無理のない目標設定を中心に計画書が作成されてるため、お子様への支援も「今できること」「これから出来そうなこと」の2つを中心に実施されている。	・通所前より多くの言葉を話すようになった。	引き続き、施設・お子様・保護者といった3者の想いがきちんと共有できるように計画書の作成とプログラムの実施を行っていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	毎日の朝ミーティング、毎月の全体ミーティングを通じて、活動プログラムを職員間で立案・計画・実施するよう心掛け実施できた。		アプリを通じて職員間でうまく出来た点や改善が必要な点等の意見交換を行い、次のプログラムに活かしていけるようにする。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	引き続き、保護者との密な連携によりきめ細やかな支援の実施が出来ている。長期休暇や警報等による臨時休校は柔軟な対応が求められ、スタッフ間もアプリを通じて情報を常に共有出来ていた。	・お出かけや色々なプログラムをしていただいているので楽しみにしています。 ・季節に応じたイベントがとても良いと思います。	引き続き、保護者との密な連携を心掛け、迅速で丁寧な対応を行っていけるようにする。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	お子様一人ひとりの強み、興味などを最大限に活かし、支援の実施が行われている。特に長期休暇など1日を通して支援する際は外出や季節イベント等も実施している。		固定化したプログラムで安心感を持つお子様もいるため、お子様一人ひとりに合わせた柔軟な活動を大切にしていける。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝のミーティングは毎日行われ、その際にお子様の通所変更や送迎時間・ルートの確認、見守りスタッフの人数等を共有している。		引き続き、職員間のミーティングを大切にしながらお互いが相談しやすい雰囲気作りを心掛ける。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	連絡帳の写し等を通じて、支援内容についての振り返りは翌日以降のミーティングで共有している。		今後も支援内容の確認を職員間で共有し、お子様一人ひとりの変化や課題等をチーム全体で把握する。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳の写しを必ず事業所として保管しており、業務日報の作成を通じて支援内容が適切であったかを確認している。		引き続き、日々の支援記録の整理を行い、振り返り際には記録を目で確認できるようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	引き続き、適時モニタリングを実施し、お子様の状態変化や保護者の意見を把握するように努めている。対面、電話、書面等、その時に応じた方法で情報収集に努めている。	今後もモニタリングを通じて、支援計画やプログラム内容の見直しを適時行い、お子様と保護者への支援を正確に行うようにする。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	相談支援事業所を中心とし、事業所や学校、保護者等の関係者が集まる会議へは出席するようにしている。	お子様の成長に伴い支援内容も大きく変化するため、将来を見据えた支援が出来るように関係者間で情報共有する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	引き続き、現在も進行性の病気を抱えているお子様の支援を行っており、保護者を中心とした支援の実施を行っている。	引き続き、地域の社会資源を把握し、お子様や保護者にとって有益な情報はきちんと伝えられるようにする。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	引き続き、主治医との直接的な連絡は行っており、保護者を通じて診断結果や服薬の確認等を行っている。	緊急対応を含めて主治医や協力医療機関との連携を強化する。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	引き続き、小学校入学の際には担当教諭と連絡を取り、学校と事業所間での連携を強化するよう努めている。	児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行はお子様の生活リズムも大きく変わるため、入学後は特に注意して支援を行う。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	当施設のこれまでの経験から、高校卒業後は実習先の事業所(職場を含む)を選択されるケースが多い。実習中の内容やご本人の様子を把握し、スムーズな移行ができるよう心掛ける。	現在だけに捉われず、お子様一人ひとりの将来も見据えた支援が出来るように視点を広げて支援を考案していく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	昨年、同じ地域にある児童発達支援センターと地域のお子様(特に重度の障がい)について情報共有を行った。	現在、重度のお子様に通える通所施設が少なく、困っている保護者が多くいること、この問題に対して私達で出来ることを考えていく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現時点で障がいのないお子様との交流機会の予定はない。	・他所との交流はなかなか難しいと思います。 ・他の施設のお子様の名前は聞いたことがありません。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所発信の行事の開催予定はないが、外出プログラムとして地域のイベントへの参加・交流機会の実施は出来た。	特に記載なし	地域でのイベントには積極的に参加するようにし、地域住民の皆様との交流や施設に対する理解を促してもらえるようにする。	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	引き続き、支援内容や利用者負担等については随時電話や連絡帳等を通じて丁寧な説明を心掛けている。	しっかり丁寧に説明していただいています。	今年は法律改正の年でもあり、利用者負担等の変更があれば丁寧な説明を行っていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援内容や説明も出来るだけ分かりやすい言葉や表現を使いながら丁寧な説明を心掛けている。	放課後等デイサービスに切り替わる時は特に説明してくれました。	今後も継続して丁寧な計画説明を心掛け、必要であれば内容の変更等も対応していく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニング等の専門的な支援は実施していないが、家での過ごし方やお子様の成長に伴う教育サポート等については随時対応している。	特に記載なし	ペアレント・トレーニングについてはまだ知識を持ったスタッフがいないため、まずは研修会等に参加学ぶことから考えている。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	引き続き、連絡帳や電話、メールを通じて、お子様の様子や日々の出来事について共有している。	・連絡帳やお電話できちんと様子を共有しています。	引き続き、お子様の様子等について保護者と情報を共有し、安心して預けてもらえるように努める。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	引き続き、保護者からの相談については迅速な対応が出来る。	・電話でお話出来ました。	今後も保護者からの相談には迅速に対応していく。場合によっては外部の施設や関係機関との橋渡しも行う。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現時点で、保護者会等の実施は予定されていない。	・仕事で難しいと思いますが会える機会はあると思います。	定期的な保護者会の開催は現時点では難しいが、親子で気軽に参加できるイベントを企画できればと考えている。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	引き続き、担当職員への事実確認等を行い、保護者へ迅速かつ丁寧な対応が出来ている。事後報告として、職員間でミーティング等を通じて必ず共有し、再発防止を徹底している。	・柔軟に対応していただいていると思います。	苦情については支援内容を振り返るきっかけにもなる事から、職員全体で共有し向き合うこととする。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	お子様一人ひとりのペースを大切にしながら、全体での動きもきちんと理解してもらえるよう支援を行っている。	・情報伝達は都度あるので助かっています。 ・特に不安はありません。	支援についてはお子様が見通しをたてやすいように、前もってお知らせをしながら声掛けをしていくこととする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	イベント等の計画についてはお手紙を作成し、お子様や保護者へ発信している。	・会報のお知らせを初めてもらった時が印象的です。	今後も施設のホームページを活用しながら、イベントの様子等を発信していけるよう努める。その際、個人情報の扱いに注意する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取扱いについては保護者全員に同意を頂き、個人ファイル棚の施錠及び書類持ち出しのルール等を徹底している。	・きちんと管理されていると思います。	引き続き、個人情報の取扱いには十分注意する。特にSNS等を通じてのやり取りには情報漏洩の可能性があるためより注意が必要である。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	地域の消防署と連携し定期的な避難訓練の実施、防犯カメラの設置、研修による感染症対応マニュアルを行い、職員や保護者へ通知している。	・幸いもまだ緊急時に遭遇したことないので分からないが、きちんと対応出来るように準備していると思います。	防犯カメラの映像については法人本部が中心となり徹底した対策が取られている。フロア一間の行き来の際には階段もあるため、必ず職員が同行するよう徹底する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	重度の障がいがあるお子様が多く通所していることから、災害発生時には避難及び救出の共通理解がとても重要と考えられる。定期的な訓練の実施を通じて職員間で共有している。	・避難訓練は行われているか分かりませ	定期的な避難訓練が実施出来ていることから、今後も継続して行えるよう担当職員と連携していくこととする。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	引き続き、法人内で虐待防止委員会による虐待防止研修会を開催。利用者に対する支援の向上に努めることが出来た。		虐待防止については委員会を中心とした組織と連携しながら対策の徹底を行っていく。虐待防止の観点から、実習生や関係機関の受け入れ等の外部との連携はとても重要なため、今後も継続して行っていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	昨年も身体拘束を行う事案は発生されていないが、研修会を通じて拘束への注意事項等を確認し、職員間で共有している。		引き続き、虐待防止及び身体拘束についてもマニュアルと同意書の説明を随時行うようにし、支援計画にも反映していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーに関しては過去にアンケートを行い職員間で共有しているが、情報の更新が行われていない。		今後もおやつの提供に際しては安全面の観点から、アレルギーの情報共有を随時更新していけるようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例が発生した際には担当職員・管理者・責任者と事実確認、情報共有を行い、書面で記録するように再度徹底。後日ミーティング等でチーム全体で共有している。		事例の発生は反省するためではなく、今後の支援に活かすことを第一に考えて向き合うようにする。